

(様式 3)

外国人児童生徒等教育アドバイザー派遣結果報告書

都道府県名	福岡県	市町村名	宗像市	大学名	
派遣日時	令和7年9月 5日(金曜日) 13:30~16:30 第1部 宗像市教育委員会の役割【説明・講話・質疑応答】 宗像市教育委員会教育部 教育支援室 3名 地域教育連携室 1名 宗像市経営企画部 経営企画課 2名 日本語指導担当教員 2名 第2部 日本語指導担当教員の役割【講話・演習・質疑応答】 宗像市教育委員会教育部 教育支援室 3名 日本語指導担当教員 2名				
実施方法	派遣 / 遠隔 ※いずれかに○をつけてください。				
派遣場所	宗像市役所 南館 2階 202 会議室				
アドバイザー氏名	福岡市立千早小学校 校長 西村 綾子様				
相談者(受講者)	宗像市教育委員会(教育支援室・地域教育連携室) 宗像市経営企画部(経営企画課) 日本語指導担当教員(宗像市立自由ヶ丘中学校・日の里東小学校)				
相談内容等	(1) 宗像市の日本語教育における今後の体制づくりについて ①「日本語教育運営協議会」の立ち上げを含む来年度の体制について ②増加する児童生徒への対応について(巡回指導だけでは、限界にきているので、通級やグループ指導を行う場合の留意点を助言してほしい。) ③日本語指導サポーター(日本語教師または、教員免許の保有者)の役割について (2) 日本語指導担当教員の役割と具体的な指導方法について ①特別な教育課程のコース設計の立て方 ②「ことばの力のものさし」とDLAの具体的な活用 ③日本語指導の具体例				
派遣者からの指導助言内容	(1) 宗像市の日本語教育における今後の体制づくりについて ①「日本語教育運営協議会」の立ち上げを含む来年度の体制について 「日本語教育運営協議会」の時期、回数についての助言があった。学識経験者を入れて、本市の日本語教育を価値づけることは、必要。ポンチ絵やスケジュールはできているので、会議研修と参加者、構成者、内容を表にして整理してみる。また、管理職に日本語体制を周知するために、管理職向けの研修を持つことはとても大事である。前年度末もしくは、早い時期に実施すると良い。 ②増加する児童の対応について 福岡市の例をもとに、巡回での複数指導を提案される。教科との統合学習や教科の指導の段階であれば、多少の日本語能力の差があっても同学年で。日本語能力別であれば、異学年で複数指導を実施し、時間を生み出す方法も一案である。その観点で時間割を見直してみる。また、オンラインで複数指導をすることを福岡市も試みている。				

③日本語指導サポーターの役割について

取り出しをする際は、主たる指導者である教員とともに指導・支援を行うことが必要。入り込みをする場合は、日本語の目標をしっかりと持つことが必要。特別の教育課程の編成を指導内容ごとに年間通したカリキュラムを作成し、それぞれの役割をはっきりさせること。カリキュラムの例示あり。

(2)日本語指導担当教員の役割と具体的な指導方法について

①日本語の特別な教育課程のコース設計の立て方

【面談】

面談では、DLA の「はじめのいっぽ」をつかって、児童生徒の日本語能力の測定を行う。また、母語では答えられるのか、思考しようとしているのかも総合的に測定。既習経験、生活背景、来日の目的等を詳しく聞き取り、日本語指導・支援が必要か判断する。今後の日本語指導について説明する。初めの面談で、学校の提出物等すべて説明。

【指導計画】

「いつ・だれが・どこで・どんな内容を・どんな方法で・何時間」するか、指導計画を立てる。日本語の5つの指導内容がわかり、入り込みの時数、取り出しの時数がわかる月別の一覧表を4月のうちに作成する。

【日本語指導】

子ども自身の学びの姿を可視化し、学びの連続化を図るために記録の共有を行う。「毎時間のカルテ」や「通知表」の工夫など。

【評価】

面談時・指導中・指導終了時に、誰が、何のために、どうやって行うのかをはっきりさせる。

段階	誰が	何のために	どうやって
面談時	コーディネーター	・指導前の日本語能力の測定 ・指導方針の決定	・インタビュー・語彙調査 ・DLA
指導中	指導教員	・定着状況の把握・指導内容の修正 ・在籍学級担任の連携に向けて	・サバイバルテスト ・ステップアップテスト(6回)
指導終了時	指導教員	・定着状況の把握・終了判定の可否 ・在籍担任との連携に向けて	・みんなの日本語テスト(6回)

【「評価段階」 西村氏資料より】

②「ことばの力のものさし」とDLAの具体的な活用

【演習】

モデル児童の滞在暦や背景、日本語の状況を聞いたうえで、「ことばの発達と習得のものさし」DLA アセスメント・レポートに、記入する演習を行う。

③指導の具体例

【実践資料の説明や動画視聴】

「日本語の基礎」「日本語と教科の統合学習」の指導事例をもとに説明や動画を視聴。取り出しは、在籍学級への参加を意識し、あいさつや学習ルール、ノートの使い方を同じにする。また、板書、学習の流れのパターン化等一斉指導に近い形で行う。同じルールにすることで、安心感を与え、適応を促すことができ、定着につながる。つけたい力やねらいをはっきりさせることが大切。

子どもが躓く5つの要因から、「理解支援」「表現支援」「記憶支援」「自立支援」「情意支援」の何があると良いか考えることが大切である。

(様式3)

	<p>以下、授業づくりのポイント</p> <ul style="list-style-type: none">○1時間の授業のパターン化○目的に応じた学習活動○必然性を生み出す活動○体験を通した学びを仕組む
相談後の方針の変化、今後の取組方針等	<p>宗像市では、日本語指導が必要な児童生徒が徐々に増えているが、各学校に数名ずつ散在している状態で、日本語指導担当教員や在籍担任任せになっていることが課題であった。また、2名の担当教員も、それぞれが使いやすいテキストや教材を使っており、計画的、系統的に指導できていなかった。</p> <p>本年度、新しい役職「日本語指導コーディネーター」が市教委の中に位置づけられたことで、市の中に日本語教育の体制を創っていくこと、またこれまで手探りで行っていた日本語指導を系統だてて、行うことを狙って、アドバイザー研修を受けるに至った。今後は次のような取り組みを行う。</p> <p>(1) 宗像市における体制の構築に向けて</p> <ul style="list-style-type: none">・令和8年度に向けて「日本語教育運営協議会」の発足・日本語サポーターの活用と役割の明文化・管理職への研修会の実施・面談時のDLAアセスメントの実施と指導計画モデルの作成 <p>(2) 日本語指導の充実に向けて</p> <ul style="list-style-type: none">・複数指導の試行授業・授業研究会の実施(実践記録の積み上げ)・個別の指導計画の内容充実と記録の共有・日本語指導の評価がわかる「通知表」の工夫

1枚にまとめる必要はありませんので詳細に記載願います。

なお、本報告書の内容は、文部科学省ホームページで公開いたします。